

「かなえられた ソロモンの祈り」

列王記 第1 3章5～15節

1

その夜、ギブオンで【主】は夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」ソロモンは言った。「あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。それは、彼が誠実と正義と真心とをもって、あなたの御前を歩んだからです。あなたは、この大いなる恵みを彼のために取っておき、きょうその王座に着く子をお与えになりました。わが神、【主】よ。今、あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし、私は小さい子どもで、出入りするすべを知りません。そのうえ、しもべは、あなたの選んだあなたの民の中におります。しかも、彼らはあまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど、おびたしい民です。善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、このおびたしいあなたの民をさばくことができるでしょうか。」この願い事は主の御心になかった。ソロモンがこのことを願ったからである。神は彼に仰せられた。「あなたがこのことを求め、自分のために長寿を求めず、自分のために富を求めず、あなたの敵のいのちをも求めず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を求めたので、今、わたしはあなたの言ったとおりにする。見よ。わたしはあなたに知恵の心と判断する心とを与える。あなたの先に、あなたのような者はなかった。また、あなたのあとに、あなたのような者も起こらない。」3:5-12

2

ソロモンの願い

- 自分に与えられた(王として民をさばく)仕事を行うための知恵を求めた。
- 神から受けた任務、使命、ミッションを行うための力を求めた。
- 私たちに当てはめるなら？
- 私たちクリスチャンの任務(使命)とは？
- 神の子ども(人間)として成長し、神のしもべとして神の国のために、王である神に仕えること。神を愛し、人を愛すること。

3

この世が求めるもの

- 自分たちの必要を自分たちの力で満たそうとする。自分たちの幸福や成功を求める。
- しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などとって心配するのはやめなさい。こういうものはみな異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。マタイ6:29

4

神が求めるもの

- 神を求めよ。神に治められることを。御国を求めよ=天国を、天国人として生きる。ピリ3:20
- というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。けれども私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。ピリ3:18-20

5

世が求めるもの

- 自分が満たされることを求める。(ご利益)
- もしキリスト教が、ご利益宗教であるなら、救いとは自分たちの願望をかなえるものであるなら、そのキリスト教、その福音は、自分中心のクリスチャンを作ってしまう。
- そうすると、欲求不満、不平不満だらけのクリスチャンを作ってしまう。信仰を途中でやめてしまうクリスチャンを作ってしまう。自分の思うようにいいかげん。うまくいかなければやめる。うまくいってもやめる。
- 「死に至るまで忠実でありなさい」？ 黙示2:10

6

私たちが求めるもの

- 「あなたに与えられたもの、仕事、使命をしっかりと果たせる恵みをお与えください。」という祈り
- ソロモンの場合はイスラエルを治める知恵と力。
- 私たちも神から委ねられている。私たちの場合は自分の人生という「国」を。小さいことに忠実であれ。マタイ25、ルカ19
- 委ねられたものには、プラスのものも、マイナスのものもある、好きなものも、嫌いなものもある、簡単なもの、困難なものもあるかもしれない。
ローマ8:28

7

かなえられた祈り(願い)

- 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。ヤコブ4:3、ピリピ3:18
- 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。
1ヨハネ 5:14

8

主の名による祈り

- またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう。もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。ヨハネ14:13-15
- それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかしわたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」マタイ26:39

9

神はおまけもくださった

- 神はソロモンが求めた以上のものを与えた
- そのうえ、あなたの願わなかったもの、富と誉れとをあなたに与える。あなたの生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者はひとりもないであろう。I 列王 3:13、マタイ6:33
- ソロモンの受けたおまけのほうが有名
- ソロモンはおまけにまけた。
- 神よりもおまけを求める傾向。
- 神がおまけに。物質主義、利己主義。

10

私たちも注意

- 神よりも、神からの「おまけ」を求める
- 「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢」、自分たちの欲望が神になる。1ヨハネ2、ピリピ3
- 神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。」伝道12:13
- ソロモンもやってしまった。そのために国は引き裂かれた(後に南北に分裂)。
- だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。マタイ6:33

11

何ができる？

- 神が私に与えてくださっている使命、任務を行わせてください。そのための恵み、力をお与えください、と祈る。(ソロモンの祈り)
- 神の栄光のために用いてください。
- かなえられる祈り=主の祈り=主の祈りを生きている。
- 神を第一にする祈り。私たちを成長させる祈り。自分を第一、中心にしない。
- 神をおまけにしない！(世の価値観)

12